

虚子記念文学館投句特選句・令和四年六月

稲畑廣太郎 選

薰風や稲畑汀子句集成

新潟 安原 葉

木々を吹く風の重さよ梅雨兆す

兵庫 小杉伸一路

蚊遣香風の自在に香の乱れ

群馬 平山邦子

巻き戻す思ひ出の日々合歡の花

兵庫 玉手のり子

終日を天に蓋して梅雨の雲

兵庫 前田容宏

祭髪結ふことさへもなくなりし

東京 荒川ともゑ

あらたなる館長の歩や風薫る

神奈川 進藤剛至

足音の途絶えし庭へ実梅落つ

兵庫 英賀美千代

固く閉づ二階の窓や合歡の花

兵庫 長安悦子

嘴を逃れのがれてあめんぼう

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和四年六月

南天の花満開の時知らず	大阪	多田羅紀子	明易の季節もつとも好きになり	大阪	八木 徹
蛇睨む岩になりたる溝鼠	岡山	一坪幸夫	気散じな似たもの夫婦古茶新茶	兵庫	上岡あきら
虚子館の石畳にも蛞蝓あと	石川	辰巳昌彦	カーテンを洗ひたくなる初夏の空	三重	池本準一
密やかな甘茶の花の汀子邸	東京	柿崎典子	日の匂ひたつぷり含み夏帽子	兵庫	高橋純子
夏の日にありし日の師を偲びる	東京	田口美和子	薫風や汀子師在す大句集	兵庫	内田泰代
鍋釜の錆びし厨房白薔薇	兵庫	川村ひろみ	麻服の着こなし巧みなる紳士	大阪	立入宮子
柿若葉明るき庭の石の椅子	大阪	徳永由起子	夏服を颯爽と著て娘の手足	石川	白根寿子
立ち話弾む砂場の夏帽子	岡山	山本祐二	想ひ出は遠き日のこと合歡の花	大阪	林 曜子
面影を泰山木の花にふと	大阪	徳岡美祢子	梅雨間近草のさ揺れの重さにも	兵庫	高野さち
青梅や葉裏葉表鈴生りに	滋賀	磯田ひろみ	短夜を寝足らぬやうに寝足りたる	兵庫	山之口倫子
若かへで水音絶えざるさへ追慕	兵庫	岩鼻絹子	榎揃へ速さを競ふ夏の川	兵庫	宮本露子
楊梅の赤き命や地に果つる	岡山	武本満子	古家の媪の悲鳴蛇垂りて	兵庫	西村みどり
地植ゑする夫の半日夏帽子	大阪	谷本房子	咲くものの低く匂ひて梅雨に入る	兵庫	小柴智子
万緑の館や麗はし回顧展	兵庫	山本康子	夏蝶の天を上げと高舞へる	兵庫	齊木富子
師の庭の緑葉の海梅熟るる	岡山	奥山登志行	青空の降りそそぐかに花棟	兵庫	黒田千賀子
太陽を愛し愛され夏帽子	大阪	石橋玲子	老鶯や話の続き忘れたる	大阪	田邊育子
走り梅雨露坐仏の眼に涙かな	兵庫	槌橋眞美	樟若葉水都の風に膨らめる	大阪	杉山千恵子
立つ意志の見ゆも鹿の子まだ立てず	大阪	山田佳音	大蜘蛛のまだ眼裏に張りつきし	兵庫	山口弘子
汀子師の庭に薫風集まり来	愛知	中野ひろみ	駆け戻り来し子の夏の匂ひ抱く	兵庫	中井陽子
ふる里の蛇は親しき仲間とも	埼玉	樋口レイ子	鳥一羽水浴びもして夏の邸	石川	牧野妙子
夏帽子おみそれしました人違い	東京	齋藤澄子	梅雨前の雲垂れ沖の鉛色	岡山	石井宏幸
貴婦人や視線を奪ふ夏帽子	三重	松村咲子	草も木も山も空気も万緑裡	石川	辰巳葉流
白き蛇身委ねをり川流れ	岡山	田口壽枝	あめんぼや水輪つらねてゆく会話	兵庫	中村恵美
俳磚を見つつ蚊を打つ庭夕べ	兵庫	平田 恵	水平線風の大波大南風	兵庫	奥田好子
街かどのギター爪弾く夏帽子	兵庫	小林志乃	師の庭の水音の時を刻み夏	兵庫	辻田あづき
絶版の書を求めぬし館涼し	兵庫	森岡喜恵子	黒き針描く円舞やあめんぼう	香川	葛原由起
若竹の藪の仲間となる速さ	大阪	窪田由紀子	水蹴つて水蹴つて行くあめんぼう	徳島	奥村 里
野の風を吸ひ宙返り燕の子	石川	村上秀吾	白靴の出番の多き予定表	兵庫	涌羅由美
			館内は偲ぶこころに満ちて夏	鳥取	棕 誠一朗

夏手袋マニキュアの赤大人びて	大阪	西尾浩子	夏館並ぶ汀子の遺品かな	大阪	高杢亮太
あめんぼう足の数だけ光の輪	兵庫	武田優子	万緑をくぐりて着くは芦屋浜	大阪	沖藤陽子
ががんぼの影の大きくついて来る	兵庫	山田佳乃	見上ぐれば佳人の庭の実梅かな	兵庫	大林芳子
知床の魂への献花君影草	京都	西村やすし	遠く来て目ざす虚子館ねむの花	京都	大黒ひさる
芦屋川水音なきまま草茂る	兵庫	深尾真理子	震災の句碑を見守る木下闇	兵庫	伊藤洋子
月に干す羽は銀色源五郎	鳥取	前田 千	万緑に鴉が一羽吸ひ込まれ	京都	木村直子
尼寺の風のやさしき苔の花	兵庫	辻 桂湖	梅雨灯短冊の句は輝きて	京都	井内房子
ラベンダーここだけ違ふ風のいろ	兵庫	池田雅かず	館内は蚊遣香ほのか汀子展	新潟	笠原佐千子
梅雨籠り遊び相手の電子辞書	兵庫	岩水ひとみ	六甲の青嶺仰ぎて句碑めぐり	京都	中島慶雄
笑まひたる遺影を拝す館涼し	鳥取	棕 則子	音も無きたそがれと老い梅紅葉	三重	水越晴子
蔓薔薇に風の乾びてゆくばかり	兵庫	岸川佐江	七変化わが身は変化歳ひとつ	兵庫	伊集院秀樹
葉裏てふ風の裏側かたつむり	大阪	山田 天	梅天の重きを解きし水の音	兵庫	細田清子
虚子館の蚊遣火の中調べもの	兵庫	藤井啓子	山路急夏うぐひすを道づれに	兵庫	二瓶美奈子
つと惜しむ夢の続きや明易し	兵庫	永沢達明	山雨止み夏うぐいすの遠音かな	兵庫	福間笙子
草笛や戻らぬ昔呼び戻す	兵庫	吉村玲子	ゆつくりと高さに揺れて合歓の花	兵庫	清瀬 環
すずらんの花猛毒と聞きしより	奈良	好川忠延	馬刺肉置いてあるなり冷し酒	愛知	小野 薫
師の恋ひし恋ひしと揺るる合歓の花	大阪	須知香代子	老鶯や信貴の懐幾度も	奈良	芳林淳子
汗拭ふ県代表にあと一勝	大阪	河辺さち子	島唄のもれくる軒や女郎蜘蛛	兵庫	大西美知子
青蘆を風が渡つてゆく芦屋	兵庫	池田文子	夕日へと最後のシヨット青芒	兵庫	ほりもとちか
ハミングをして父の日の父なりし	京都	前 悦子	蜘蛛の囀のかかる納戸のうす暗き	兵庫	入谷千恵子
夏帽子要らぬ程なり奥入瀬や	兵庫	小川孝子	街はずれ揺れる一株青芒	兵庫	山崎渺美
厨房に卵とく音走り梅雨	兵庫	キートスばんじょうし	蜘蛛の子を散らすが如く下校門	兵庫	道中義一
草笛響く天と地の広きかな	奈良	堀ノ内和夫	五月雨るる社の隅に母子句碑	兵庫	高市敦之
つゆのそらいつあめふるかそらみあげ	京都	木村りょうたろう (青少年)	冷やし酒夢の夫もうらやまん	東京	木村三球
回顧展花鳥諷詠梅は実	大阪	明山由紀	補助輪の外れし吾子や梅雨夕焼	神奈川	平野孤舟
館涼し微笑みばかり師の写真	京都	山崎貴子	噛合はぬ二人の会話時計草	石川	伊東弥太郎
虚子館にねむの木ゆらす海の風	大阪	大町久美	浜風に雲吹き飛ぶや夏柳	東京	櫻庭 寛
館涼し水茎に見る師の決意	京都	井上由紀美	瞑想の呼吸ととのひ沙羅の花	和歌山	中島紀生
			山間の隠れ集落青田道	兵庫	足立朱麻

虹の空仰ぐかんばせ軒しづく	神奈川	小堀公美子
初蟬や迎へてくれし旅帰り	兵庫	田村惠津子
紫陽花や哀しみを容れ藍となす	東京	宮村土々
ひめゆりの塔や真紅の仏桑花	埼玉	土井洋子
蠅去つて日曜の七階に閑	滋賀	近江堇花